

## 【内浦学区・内海学区】(仮称) 千年小中一貫教育校(義務教育学校)に係る地域説明会 概要

\*分かりやすくするため、一部補足を加えています。

【日時】2019年(令和元年)5月11日(土) 19:00~21:10

【場所】内浦小学校 体育館

【出席】参加者 48人(傍聴4人を含む。)

行政 15人(教育長, 教育次長, 管理部長, 学校教育部長 他)

【内容】1 開会

2 あいさつ(教育長, 内海町教育環境整備推進協議会会長)

3 説明

・学校再編の目的と必要性について

・(仮称)千年小中一貫教育校の概要(教育内容, 施設整備)について

4 意見交換

5 閉会

## あいさつ

(教育長)

- ・2015年(平成27年)8月に学校再編計画を公表して以後、本日が初めての地域説明会になる。4年近くの間、保護者や地域役員を中心に、何度も説明会や意見交換の場を持たせていただいた。説明会等に参加し、意見を聞かせてくださったことを感謝している。自分の子どもが通う学校、内海町の学校はどうなるのかという心配をされながら、過ごしてこられたと思う。長い時間このような状態が続いていることを申し訳なく思う。
- ・2019年(平成31年)2月に、内海町教育環境整備推進協議会から、内海に教育環境を残してほしいという要望をいただいた。学校を再編すると、内海町から学校がなくなってしまうという皆さんの思いは、重く受け止めている。しかし少子化が進み、社会がものすごいスピードで激しく変化している今日、子どもたちに求められる力を、学校生活、日々の授業においてしっかりと育てていくため、学校再編は避けては通れないと考えている。十分に説明できていないことや様々な課題もあるが、皆さんに御理解いただき、教育委員会が責任を持って、子どもたちにとってより良い学びの環境を作っていくと考えている。

(内海町教育環境整備推進協議会 会長)

- ・6年前から統廃合問題に取り組んでいる。2014年(平成26年)には、要望書を市に出した。それ以後様々なやり取りがあったが、教育委員会からの回答はなかった。
- ・市の新しい整備計画に対する思いを要望書にまとめ、今年2月に出し、4月に市から回答があった。我々にとっては厳しい内容だったが、内海町に教育環境を残してもらいたいという思いで活動してきた、思いを教育委員会に届けてきた。
- ・本日は、出席者の大半が田島東部地域の方だと思うが、内浦小学校を抱えた地域なので、皆さんの意見や思いを出していただき、何とか我々の思いが成就できるようにしていきたい。今後も皆さんの声をまとめ、届けられるような活動をしていきたい。

意見交換（出席者から出された意見等）

学校再編に関すること

○ 学校再編計画の構想が見えない。

→（回答）

千年中学校の場所に、新たに施設一体型の義務教育学校を作る。新しい学校の教育内容は、内浦学区・内海学区も含めた5学区全域において、それぞれの学校が今まで培ってきた教育活動を良い形で引き継いで編成する。内浦学区の地域資源を学んだり、内海町に来て海について学習したりする活動も積極的に行っていく考えである。

子どもたちは、内浦・内海の地域で元気に生活しながら、スクールバスで義務教育学校に通えるようにするので、安心していただき、新しい学校づくりに皆さんの力を貸していただきたい。

○ 内浦小学校は廃校になるのか。

○ 常石小学校の児童は皆、千年の義務教育学校に行くのか。常石にできるイエナプラン教育校に行きたい人は行けるのか。

○ 学校を廃校するといった権限は、行政に一方的にあるのか。住民は直接関係ないのか。

○ 住民の6・7割が反対しても、行政の権限で廃校にするのか。

→（回答）

学校を再編して、新たに義務教育学校を作るので、7校は全て廃校になる。

常石小学校の施設を活用してイエナプラン教育校を作るが、常石学区の子どもたちの指定学校は千年小中一貫教育校になる。イエナプラン教育校は、市内全域から通うことができる学校とするので、イエナプラン教育校を選ぶこともできる。

学校の設置は、教育委員会で責任を持って方針や計画を立てるが、最終的には、住民の代表である議員が、市議会で福山市立学校設置条例の改正を議決して、設置・廃止が決まる。

「小中一貫教育と学校教育環境に関する基本方針」は、行政だけで検討したものではない。地域や保護者の代表、大学教授や各団体の代表などで構成する学校教育環境検討委員会に、望ましい学校教育環境のあり方について諮問し、その答申の内容を尊重して策定した方針であり、住民の代表の意見が反映されているもの。

現時点で反対の思いが多いということはあるが、教育内容を含め、義務教育学校の良さや教育委員会の考え方をしっかり説明し、理解いただけるよう取り組んでいく。

○ 笑顔で過ごせる人が多いという地域を作ることが、行政の一番大きな仕事だと思うし、教育もその中の一つだと思う。

○ 地域にとって大切な問題なので、これから何度も話をさせていただきたい。

→（回答）

教育委員会は、子どもたちの教育をどうするかを一生懸命考える責任を負っている。子どもたちが幸せになることを考え、取組を進めている。子どもたちの教育に関してく

ださった皆さん、子どもたちの姿を見守り続けてくださっている地域の方々が幸せになることも大切である。これからも、皆さんの思いを聞かせていただき、話をさせてもらいたい。

○ 学校再編は、子どもたちのためではなく、行政のためにしているのではないのか。言われていることは、本当に実行できるのか。

→ (回答)

学校再編は、子どもたちにとってのより良い学びの環境づくりのために行っている。これからも世の中は激しく変わっていく。今の子どもたちに、これから求められる力を付けていくことのできる環境を早く作っていかねばならないと考えている。主体的に考え、課題を見つけ、何をすべきかを探究し、他者と協働して新たな価値を作っていかななくてはいけない時代になる。一定の集団の中で、子どもたち同士が関わり合い、様々な価値観や多様性に触れ、変わっていったり、新しい価値に気付いていったりする。そのような環境で子どもたちを育てていくことが、我々大人の責任だと思っている。

○ イエナプラン教育校は、どちらかというと小規模校になるのではないのか。常石グループの支援がなければ成り立たない学校なのか。

→ (回答)

イエナプラン教育校は、1年生から3年生まで、4年生から6年生までの異年齢集団で、30人程度の集団を作り学習をする。その集団が各2クラスから3クラスある。(児童数120人～180人)

また、再編後の常石小学校の跡地を活用し、常石グループの支援を受けながら、官民協力して作っていく学校である。広島県教育委員会も、異年齢集団によるグループ編成での教育の県内の公立小学校への導入に向け、今年度は担当課を作り、教育カリキュラムを検討している。県教委から、福山市に打診があり、本市が進めている教育の方向性と合致したことから、創設を決めた。

常石グループには、施設・設備の整備に協力いただけることになっている。さらに、外国籍の子どもたちに対する日本語教育の提案もある。市としては、どこかの小学校でイエナプラン教育を導入したいという思いがあり、常石グループから官民協力したイエナプラン教育校の創設の提案があったので、常石小学校の跡地を活用して設置することにした。

○ 小規模校は、小規模のメリットを活かした教育を行っている。小規模校の方が、学力が低いとか、適応力がなく対応力が乏しいということがあるのか。

→ (回答)

小規模校は、子どもたちに力をつけるために、小規模校の良さを生かし、工夫をしながら、日々授業や教育活動を行っている、しかし、少子化に伴い学校が小規模化する中、これからの社会を見据え、子ども同士が学び合い、関わり合い、色々な経験を通して必要な力を付けることのできる、一定の集団規模を確保した教育環境を整えたい。

○ スクールバスは、内海町から通う子どもがいる限り、ずっと運行してもらえるのか。有償か無償か。

→ (回答)

スクールバスによる通学支援は、子どもがいる限り行う。また、スクールバスは、市が委託契約を結んで運行する。経費について、保護者負担はない。

- この地域がどのような良さを持っていて、その良さの中で、子どもがどのように伸び、育っているのかを考えながら、今後どのようにするかを検討してもらいたい。
- 内浦小学校が、今までどのような活動をしてきたのか、それを支えてきた地域の人はどういう良さを持っているのかを考えてほしい。
- 新しい学校を作るために、内海の学校を全てなくし、みんな千年に通うということは、簡単には理解できない。

→ (回答)

内浦小学校を含め内海小学校、内海中学校で行っている取組は、地域の自然や伝統文化などを学び、地域の方と触れ合ったり、学んだことを発表したりすることなどを通して、力を付けている。

内浦小学校では、世界を持続可能な社会にしていくために、環境や人権、平和等について、どのようなゴール(目標)を設定し行動していくかを考えるSDGs(持続可能な開発目標)の活動を行っており、アマモ等を通した環境学習などに取り組んでいる。

義務教育学校では、内浦小や内海小、内海中学校で今取り組んでいることを踏まえ、ESD(持続可能な開発のための教育)の観点で、内海町を学びの場として、海洋を資源とした教育活動を行っていくことを考えている。内浦、内海の小中学校で大切にしているものを引き継ぎ、活かしていけるよう、7つの学校と一緒に教育課程を作っていく。子どもたちが内海の地域に出向き、地域の皆さんから教わったり、体験したりして学ぶ授業展開を積極的に行っていく考えである。

## 地域に関すること

- 学校がなくなり、学校で学んでいる子どもたちが見えなくなっていく地域がどんなに寂れ、崩れていくか。閉校した場合の対策等は考えているのか。
- 教育の場がなくなると、内海町の人口はどんどん減っていく。
- 再編が既に決まっているのであれば、学校施設をどのように活用していくのか等について、何度も協議をしていきたい。

→ (回答)

再編後の学校の跡地活用も含め、地域の活性化や魅力あるまちづくりについて、地域活性化の担当部署や内海支所、南部生涯学習センターと連携して、魅力ある地域になるよう皆さんと一緒に考えていきたい。内海町教育環境整備推進協議会からは、9項目の要望が出され、すでに話し合いが始まっている。

- 福山市と内海町が合併する際、合併建設計画を作った。合併建設計画は、文書できちんと決まっているが、結果を知らせてもらっていないことが残念。
- 合併建設計画は、市議会、県議会で承認されているが、決まった後に守られているのか。

→ (回答)

合併建設計画を見直した経過はあるが、国の合併特例債を活用しながらハード整備事業を進めてきた。中には、計画期間内に事業が完了できなかったものがあり、結果的に当初の計画と比べれば、取り組む項目が少なくなっている。学校については、合併後、内浦小、内海小、内海中学校の施設整備を行っている。

- 何とか内海に学校を残すという発想を持ってほしい。
- 地域に教育の場を残すという目線で、内海に小中一貫教育校を作ることを考えてもらいたい。
- 我々がどうこう言う問題ではないのだろう。

→ (回答)

地域の皆さんの学校への思いは、重く受け止めている。しかし、内海町内の3校を1校にして小中一貫教育校を整備したとしても、一定の集団規模が確保されないため、縦のつながりはできるが、横の広がりには期待できない。子どもの数が減少する中、内海町の子どもたちのこれからの教育や学ぶ環境を考えると、7つの小中学校が一緒になることが、教育内容、教育環境の両面から望ましい。内海町に学校を残すことはできないが、新たな義務教育学校の学びの場とするとともに、内海の自然環境を生かし、市内全域の子どもたちの体験学習の場となるように考えている。

#### 【教育長結び】

現時点での教育委員会としての考え方は、今日説明させていただいたとおりである。子どもたちのために、新たな学校を作り、学ぶ環境を整備する。

今後も、皆さんの話を聞かせていただきたいと思う。伝えられることは伝えさせていただき、子どもたちにとって、皆さんにとって、どのような答えを出すことが、皆さんが幸せなことになることに向かっていくのか、皆さんの思いを聞かせていただきながら進めていきたい。発言いただいた言葉は、本当に強く、重いと改めて思った。一人一人の思い、今日は発言されなかった方の思いも聞かせていただきながら、取り組んでいきたい。